

Vol. 52
September
2025

JDS Network News

発行元：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）



表紙：ベトナム トゥサン溪谷

Topics

日本での経験と帰国後の展望～JDSウクライナ1期生帰国～

- ◆ パネルディスカッションに登壇しました
～大阪・関西万博「いのち会議」～
- ◆ ほっとひと息：ベトナム

JDS The Project for
Human Resource Development
Scholarship





Ms. Horpynenko Yana(ホルピネンコ・ヤナ氏)
Mr. Horpynenko Vladyslav(ホルピネンコ・ブラディスラフ氏)

立教大学大学院社会デザイン研究科、2026年修了予定、ウクライナ農業政策・食糧省職員

2024年8月に来日したJDSウクライナ1期生のホルピネンコ・ヤナ氏とホルピネンコ・ブラディスラフ氏は2025年8月下旬に1年間の日本での留学を終えて、ウクライナに帰国しました。9月からはじまる新学期からは母国ウクライナにて研究を続ける予定です(※)。

(※現在、ウクライナでは公務員は最長1年間の海外渡航が許可されています)



ホルピネンコ・ヤナ氏(右)
ホルピネンコ・ブラディスラフ氏(左)

帰国前の8月中旬に日本での留学経験についてヒアリングする帰国前評価会を行い、お二人からJDS留学と帰国後の展望についてのコメントを頂きました：

日本に1年留学した間、研究だけでなく国内外への訪問を含む様々な経験をする事ができました。立教大学大学院社会デザイン研究科、JICA、JICEにはこのような機会を頂きとても感謝しています。

留学生活で楽しかったことや印象的な経験は沢山あって選ぶのが難しいのですが、広島や陸前高田への研究ツアー、学内のイベントへの参加などが特に記憶に残っています。海外研修も大学に企画していただき、タイのバンコクおよびパタヤにて、農業分野での日本の技術協力における成功事例の現地調査にも参加する事ができました。ウクライナと日本との技術協力事業での参考としたいと思っています。また、外務省、農林水産省、JICA、民間企業の方々と交流する機会もありました。

立教大学の先生たち、JICEの皆さんには常にサポートしてもらいました。先生とは学業だけでなく日常生活についても気軽に相談することができる環境で、教室がまるで一つの大家族のようにも感じました。JICEの担当者には定期モニタリングを通して相談する事ができただけでなく、困った際には連絡するとすぐに回答をもらえ、この一年間きめ細やかにサポートして頂き、安心して研究に注力できました。

帰国後は、まだ1年間の就学期間が残っているので、まずは研究科から出される課題に取り組みたいと思っています。先生と連絡をとりながら、ウクライナでデータや情報を得て、修士論文を執筆していく予定です。また就学しながら、職場に戻る予定です。私たちの経験が、農業分野において両国間の更なる協力関係の構築に貢献するように努めたいと思っています。

両氏がJDS留学で得た知識・経験・ネットワークを活かし、ウクライナの発展にさらに貢献することが期待されています。

パネルディスカッションに登壇しました ～大阪・関西万博「いのち会議」～

2025年6月26日、JICE関西支所は、JDS留学生及びJDS中国留学生(※)によるパネルディスカッションを大阪大学中之島センター(大阪市北区)で開催しました。このパネルディスカッションは、「大阪・関西万博 TEAM EXPO 2025 共創チャレンジ」に参画する大阪大学の「いのち会議」のアクションパネルの一環で、アジア各国の行政官である8名のJDS留学生がパネリストとして登壇し、「イスラム世界の女性のエンパワーメント」、「環境問題への持続可能な取り組み」という2つのテーマについて活発に議論しました。 ※JDS中国:外務省の中国若手行政官等育成支援事業



「イスラム世界の女性のエンパワーメント」での発表の様子

各パネルディスカッションでは、パネリストが自国の持つ課題についての説明を行い、その後に対応策についての意見交換を行いました。

「イスラム世界の女性のエンパワーメント」のパネルでは、自国の優れた女性の紹介と共に「ロールモデルとなる優れた女性のサクセスストーリーを発信する」という提案もありました。

パネルディスカッション終了後、JDS留学生からは、「大学や研究科が異なる留学生仲間と、長期にわたる準備期間も含めて深く語り合うことができ、非常に貴重な経験になった」「このような場で自国やその課題について紹介することができ、日本留学の中で忘れられない経験となった」との感想が寄せられました。



パネリストのJDS留学生8名(7カ国から参加:ウズベキスタン、キルギスタジキスタン、中国、パキスタン、バングラデシュ、モルディブ)

SINCE 1999



Where
Leaders
are made.



JDS The Project for
Human Resource Development
Scholarship



ベトナムは東南アジアに位置し、豊かな自然と歴史を持つ国です。稲作を中心とした農業が盛んで、川や海に囲まれた地形が人々の暮らしに深く関わっています。中国やフランスの影響を受けた文化が融合し、料理や建築、生活様式にその特色が表れています。特にフォーやバインミー、生春巻きなどの料理は世界的にも知られ、街角の屋台でも手軽に楽しめます。今回は、そんなベトナムの軽食や食文化をご紹介します。



【Mãng cầu(マンクアウ) / Na(ナー)】

農業大国ベトナムでは、街角や市場、スーパーなどで様々な南国の果物が売られています。写真の果物は、その形から日本語では「釈迦頭(しゃかとう)」ともいわれるバンレイシです。白い身がとても甘いのに後味がさわやかでやみつきになります。ベトナムでは、南部ではバンレイシを「マンクアウ」と呼び、北部では「ナー」と呼ぶそうです。

【Chè(チェー)】

豆、餅、仙草ゼリー、果物などの具材にココナッツクリームと砕いた氷を掛けていただく定番デザートです(温かいチェーもあります)。一皿でいろいろな味が楽しめるところが、日本のミツマメに似ています。毎日夜遅くまで開いている店もあり、飲んだ後の一杯としても親しまれているのかもしれませんが、遅くまで地元のひとでにぎわっています。



【Trà (チャー)※お茶】

喫茶文化が盛んなベトナムではコーヒーはもちろん、お茶も楽しめます。目の前で香りづけのために蓮の花の中に茶葉を仕込んである蓮茶をサーブしてくれるお店もあります。ベトナムで「チャーセン」と呼ばれる蓮茶は、すっきりとした苦みで、どんな食事にもよく合います。アイ스티ーなら、緑茶のほかに屋台や麺料理屋でよく見かける「チャーサムズア」。バニラのような甘い香りなので、これがあれば料理に唐辛子を足しすぎても大丈夫そうです。

JDS 3つの特徴

1

行政官限定事業

※一部例外がございます

2

6,345名 23カ国の実績

※事業終了国の人数も含む ※2024年度までの人数

3

大臣・局長級を輩出

対象国の社会・経済開発計画の立案・実施に関わる若手行政官が日本で修士号または博士号を取得しています

出身省庁…財務・経済、法務、行政、環境、インフラ、教育等

<JDS実施国 (JICE)> ※受入開始年順

ウズベキスタン、ラオス、カンボジア、ベトナム、モンゴル、
バングラデシュ、フィリピン、キルギス、タジキスタン、
スリランカ、東ティモール、パキスタン、ブータン、モルディブ、
ケニア、セネガル、ウクライナ

※中国は2012年、インドネシアは2006年に事業終了しました。

日本で専門知識を身に付け帰国した留学生は、
日本との政策対話に携わり二国間関係の強化に寄与する等、
様々な場面で活躍しています。

人材育成奨学計画 (JDS) は無償資金協力による
JICA留学生事業です。

編集後記

JDS Network News (JNN) をお読みいただき、ありがとうございます。

300名を超える留学生が今年も無事来日しました。来日したての皆さんの顔は、2年間の日本での研究生活への希望でキラキラ輝いていました。

日本のアニメをきっかけに日本語を勉強しているケニアの留学生は、「修士号だけでなく、2年間で日本語能力試験 (JLPT) のN2試験に合格したいです」と楽しそうに目標を語っていました。

日本語を活かして、沢山のひとと交流してネットワークを広げることを期待したいです。

JDS事業に関するご質問がございましたら、お気軽にメールで弊センターまでお問合せください。また、本誌へのご意見・ご感想もお待ちしております。

【お問い合わせ先】

一般財団法人日本国際協力センター (JICE)
留学生事業第一部広報担当
E-MAIL: jds.pr@jice.org